



みんなが地産地消に取り組むことで、CO₂の発生が抑えられ、地域の農業が活性化し、大気も浄化されていく

クールアース・デー

ライトダウンキャンペーンの取り組み

環境省は、地球温暖化の防止と自然環境との共生を目的に、7月7日を「クールアース・デー」と定めました。この日は、家庭や職場でCO₂削減に向けた取り組みを進め、みなさんに環境問題への意識を高めてもらうため、全国各地でさまざまなイベントが行われます。

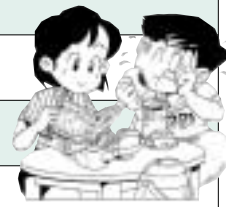
国では「CO₂削減・ライトダウンキャンペーン」を開催。照明を消し、CO₂の削減を呼びかけます。

ライトダウンキャンペーン

市でも、この取り組みに参加し、CO₂の削減を呼びかけます。市民のみなさんの参加をお願いします。

表② ライトダウンキャンペーンの取り組み

市民の取り組み内容	家族が同じ部屋でだんらんし、照明はいつもより暗くする。誰もいない部屋は明かりを消す
	お風呂は続けて入り、シャワーは必要な時だけ
	家電品のコンセントを抜く
	冷房は28℃に設定する



事業所の取り組み内容	業務以外の照明やOA機器、冷暖房器などの電源を切り、コンセントを抜く。特にノートパソコンはコンセントから抜く
	看板等のライトアップ施設の消灯、また過剰なライトアップを控える
	ノー残業デー(定時退社)の実施
	冷房は28℃に設定する



●一斉ライトダウン
ライトダウンキャンペーンの一つとして、街の一斉ライトダウンを行います。

また、事業所や団体は、ホームページからもキャンペーンに参加登録できます。

日時 7月7日(水) 20時から22時まで2時間

参加登録

http://coolearthday.jp/

ライフスタイルを見直そう

私たちができるCO₂削減の取り組みは、日々の生活の中にあります。表②のように、電気や石油をなるべく使わない生活が大きなポイントとなります。

そのひとつに、フード・マイレージがあります。日々の生活で口にする食品の総重量と輸送距離を乗じて数値化したものです。

フード・マイレージが大きいほど、環境に負荷を与えていることとなります。

つまり、生産地から食卓までの距離が短い食べ物を食べるにより、輸送に伴っ

地産地消は環境に優しい

フード・マイレージが小さい食品の代表は、地元で生産される食品です。日々の食生活で、地元の食材を選ぶこと。つまり地産地消の実践は、環境への負荷を抑えることとなります。

同じ食材でも、産地から消費地までの距離で、輸送に使

われるエネルギーに大きな差があります。

天ぷらそばを例にとり、国産の食材と輸入の食材の輸送エネルギーを比較してみました(図②)。合計で3.6倍の差があり、地場の食材を購入することで、大きな省エネルギーを達成することができます。

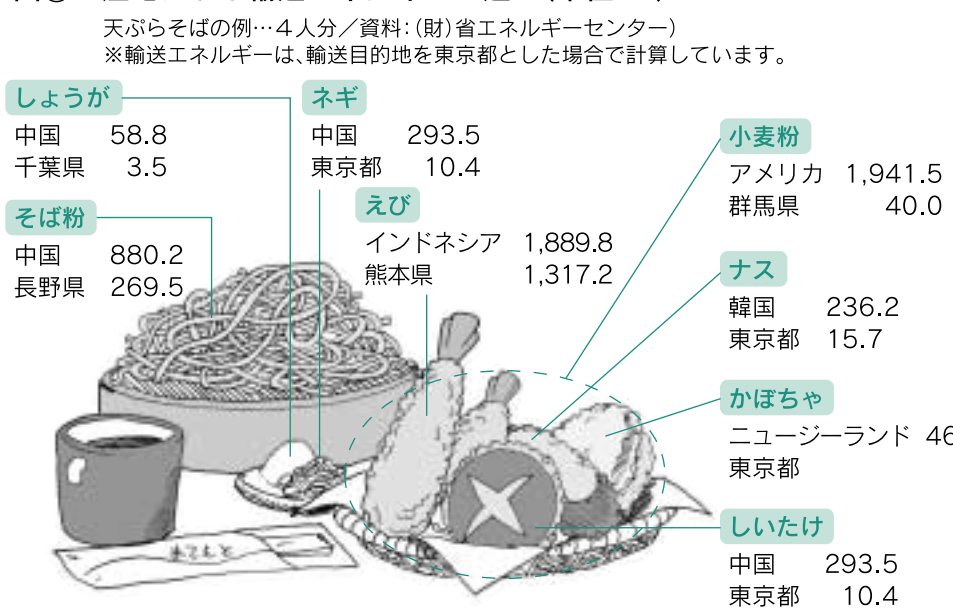
旬のものが一番

同じ地元で栽培される野菜なども、その生産方法や栽培時期によって、生産に要するエネルギーに大きな差が出てきます。

例えば、野菜をビニールハウスで栽培し、本来の季節以外に収穫するには、大きなエネルギーが必要です(図③)。つまり、栄養価が高く、安くおいしい旬の食材をなるべく選んでいくことで、生産にかかるエネルギーを削減することができます。

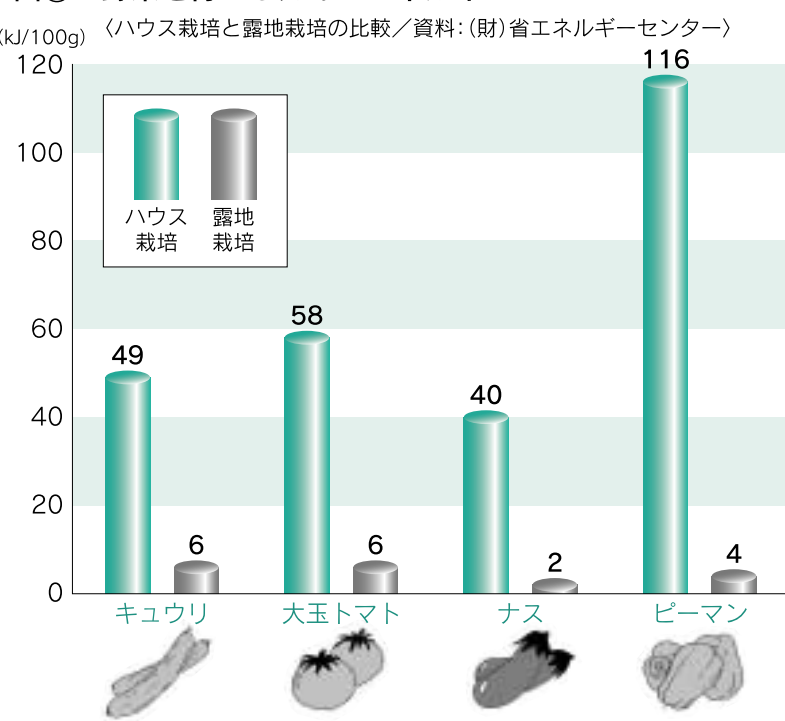
糸島は、新鮮でおいしい食材に恵まれた地域です。お店で食品を選ぶときは、地元産など生産地に近いものを選びたいものです。確かに安い食品は、魅力的です。しかし、なぜ低価格で

図② 産地による輸送エネルギーの違い(単位:kJ)



単位1kJは、1kgの物を100m持ち上げるのと同様エネルギーです。また、1kJで、0℃の水5gを、50℃に温めることができます。1kJ=5/18ワット時

図③ 野菜を育てるためのエネルギー



ガレージセール

物をたいせつに使うことは美德であり、良いことと分かっているにもかかわらず、新製品が欲しくなったり、修理するよりも買い替えたほうが安ければ、実践が難しいもの。しかし、使わなくなった物でも、それをたいせつに使うてくれる人がいれば、うれいものです。特に子ども服などのお下がりには、子育て真っ最中の親にとっては大きな生活支援です。最近、イベントなどでよく目にするガレージセール。要らなくなったものを必要とする人に低価格で譲り渡す方法です。これもまた、省エネにつながるたいせつな生活の知恵なのです。